

学校課題と教育課程の編成



1992. 2. 1

第 88 号

編集・発行
 福島県教育庁
 会津教育事務所
 吾妻 幹 廣
 編集協力
 北会津・耶麻・両沼
 地教委 連絡協議会
 小・中 学校 校長 会

「各学校」の教育課程を！

今、「各学校」では、地域や学校の実態、児童生徒の発達段階に応じ、学校課題とその諸方策を明らかにした「特色ある教育課程」を編成していることと思われる。

今回は、この「教育課程の編成」について特集した。

一、「各学校」がより一層主体性を発揮して

今回の教育課程

改訂の基本方針や教育課程の原則等を踏まえるとともに、学校課題に的確な対応をするために、今まで以上に各学校の創意工夫が望まれている。

そのためには、編成作業は各学校における運営組織の機能を十分に発揮し、一年間の反

省等を生かしながら、学校として統一と調和のある、しかも一貫性をもった教育課程の編成を行う必要がある。

二、教育目標の具現化のための共通理解を図って

共通理解を図るには、推進主体者に任せてしまうことなく、教師一人一人が係や担当者とともに、課題解決に対して「いつ、どのように」自分がかわれるかについての自覚をもつことが大切である。

そのためには、重点目標へ向けての児童生徒の実践目標や実践の場と教師の実践事項を明らかにするとともに、実

施と評価内容・方法やその時期をも位置づけておく必要がある。

編成期に「実施・評価」が見えるようでありたい。

三、学ぶ側に立つ教育課程を

生活科や道徳などの「学級における指導計画」等、これから作成するものは勿論、既に作成された指導計画についてもその見直しを図る必要がある。

例えば、可能な限り「『させる』などの記述から、児童生徒側に着目した『〜できる』などの記述へと改めることも大切である。

「各学校」の教育活動を進めるに当たって「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の充実」という基本理念を重視した教育課程でありたい。

教師であるかぎり、だれもが常に「良い授業」をしたいと願う。そのために、教材研究をし、発問や板書構造を工夫するなど、日夜心をくだぐだ。「良い授業」を生み出す要件は数多くあるが、

その一つに教師と子どもとの人間関係、とりわけ教師による子どもが見方が重要な役割を果たす。「個を生かし、個を育てる教育」の実践が求められている今日、個のとらえ方を改めて見直さなければならぬ。

私たち教師は、日常生活や学習場面で、次のような言動をマインナ面としてのみとらえてはいないだろうか。「落ち着きがない」、「学習に集中できない」、「おしやべり」などを学習を進める上での好ましくないこととしてとらえ、それを直すことにのみ終始していたのでは矯正という行為だけが先行し、個を伸ばそうとする発想は生まれてこない。

個の見方、とらえ方の再考を

会津教育事務所指導課長

新井田 滋 雄

には、視点を百八十度転換し、子どもの心の内面を見とることが大切である。

たとえば、「落ち着きがない」と思われる子どもたちは、豊かに思いをめぐらし、次の行動を考えていると見ることができると、お

しやべり」と言われる子どもたちは、一つの発問に対して二つ三つの答えを出していると考えることができると、このように考えると、

子どもの方、とらえ方は変わってくるはずである。

個の見方が変われば、その子どもへの次の発問は、「○○君、これを調べてみましよう」などとなり、矯正ではなく、発想や創造性を豊かにする素晴らしい授業が展開できると思う。

新しい学力観に立った授業の創造——それは、個の見方、とらえ方について改めて見直し、一人一人の「よさ」や「思い」を大切にしていこうとする教師の姿勢にかかっているのではなからうか。



小学校 道徳

会津若松市立一箕小学校
成 田 力



新学習指導要領の方針を受けて、道徳の時間の指導では、道徳的実践力を育てる授業の実践に努めてきた。

今までの反省点として、資料と児童の結びつきが浅く、自分の生活をふり返る視点が

漠然としていたので、実践力を高めるまでには至らないことが多かった。そこで「手だて」として、次のような見通しをたてた。

一、指導したい価値観をはつきり描く。その方法としては、本時のねらいの文言にこだわる。

二、資料を価値観にそって焦点化する。そして、指導内容にあった主人公の行為や気持ちを把握する。

三、資料から取り出されたものの見方。

新学習指導要領の趣旨を生かした わたしの実践 ⑥

考え方で、自分の生活をふり返る際の視点にする。その結果、資料から取り出された視点で、自分の生活を多面的に見つめ直すことができるようになってきた。それに、主人公と同じ心が自分の中にもあったことなどに気づかせることができた。こうした心の動きが、実践力を高め、生活に生きて働く力になると考える。今後は、体験活動との関連を重視していきたい。

中学校 社会

二島町立宮下中学校
貝 沼 和 男



生徒の主体的な活動を促すため次のことを念頭において授業改善に努めている。

- (1) 小単元を通じた学習課題の設定
- (2) 小単元を通じた学習課題の設定
- (3) 役割分担と答弁の準備
- (4) 模擬町議会の開催
- (5) 興味関心に基づく課題選択学習など

(1) 小単元を通じた学習課題の設定

(2) 選挙の公示と選挙要望

(3) 役割分担と答弁の準備

(4) 模擬町議会の開催

研究校紹介

本校におけるコンピュータの研究は、昭和六十三年十二月、FMR-50Sの導入に始まる。以来、試行錯誤を繰返しながら、市販ソフトを使って、「コンピュータに慣れ親しむ」ことを研究の柱の一つとして取り組み、十二台をスタンドアローン方式(独立型)で、教科学習・クラブ活動において活用を図ってきている。

教科指導においては、主として、算数科や理科で行われ

授業におけるコンピュータ活用

会津若松市立鶴城小学校

いや内容との関連を検討し、その有効性が十分生かされるように授業設計しなければならぬ。また、グループ学習が主となるため、個々の学習の到達度や速さ、操作能力、

- ・会津若松市立鶴城小学校
- ・会津若松市立第三中学校
- ・会津若松市立第五中学校
- ・会津若松市立一箕中学校
- ・北会津村立北会津中学校
- ・猪苗代町立猪苗代中学校
- ・喜多方市立第一中学校
- ・高野村立高野中学校
- ・金山町立高野中学校
- ・金和村立高野中学校
- ・湯川中や会津若松市内の中学校などで近々購入の予定。

このような「場」の設定は基礎的基本的事項を用い、自ら考え、判断し、表現する場であり、思考力・判断力を高めるのに有効と思われるので更に活用したい。

心に残った人々

塩川町教育委員会教育長 渡部 多吉



昭和三十三年四月、塩川中学校は町内四つの中学校の統合校舎として発足した。その初代校長が一重佐代二先生である。先生は性格剛毅、沈着にして冷静、事に処して動じないお人柄は人

をひきつけ、義理人情にも厚く、公私両面にわたってご指導を戴いた。先生は学校経営の所信として五か年ひと区切りの「一節運動」を計画され、さらに「フロンティア・スピリット」を合言葉に未完成未整備の悪条件を克服し、地域の信託に込めるべく学力向上に、中体連活動に陣頭指揮で統合校舎の礎石固めに努力された。戦後十数年を経てはいいたが、職員

の行動も考えも多種多様で、それをリードされての経営は並大抵の苦労ではなかったと思う。先生に心配や迷惑をか

けた一人として恥じいるばかりである。不幸にして先生は、町の教育長時代、公務出張中不慮の交通事故で他界されてしまつたが先生の「一節運動」や「フロンティア・スピリット」は教育長時代にも発揮され、意欲的な行政への取り組みは今私の職責の大きな寄りどころとなり心の支えとなつてい

る。先生のご遺徳を偲びながら生涯学習をもふくめ、二十一世紀にむけての教育を切り拓いてゆきたい。

随想

スポーツが健康と体力増進のため、盛んに行われている一方、新聞紙上で、運動中の死亡が報道されることもしばしばです。

運動と突然死

嵯谷クリニック院長 嵯谷 勸

別ではランニング(ジヨギング、マラソン)が多く、ついでバスケットボール、野球、水泳の順になっています。運動中の突然死の多くは、心臓、特に不整脈が原因であると推察されます。剖検所見

ター心電図(長時間記録心電図)やトレッドミル、エルゴメーターを用いた定量的負荷法を利用することが望ましいようです。この結果に基づいて、運動の強度や量を決定し

健康に関する正しい知識について想うこのごろです。



により命が助かること

では、中高年者では冠動脈硬化症、若年者では肥大型心筋症、小児では心筋炎後遺症が多く認められています。予防対策としては、心循環系を中心としたメデイカルチェックが必要です。特にホル

ます。脱水、熱中症、疲労困ぱいなど、誤まったスポーツ実施のために生ずる環境因子も見逃してはなりません。万一事故が生じた際の救急蘇生も大切なことです。救急車が到着するまでの間、蘇生を行うこと

社教の窓から

白榆看護専門学校 専修学校開放講座

本年度も、地域に密着した生涯学習の普及啓蒙および県民の学習機会

の拡充を図るため、専修学校の有する専門的知識、技術、教養に関する体系的な学習機会を県民に提供することを目的とし、県からの委託事業として県内五会場で専修学校開放講座を開設した。会津管内では、昨年度に引き続き、白榆看護専門学校にお願いして開設した。

しかも親切でいねいなご指導であった。「成人病予防のための食事」では、看護婦でもある学校の先生方が調理した食事の試食をとおしながら具体的な学習をした。寝たきり病人の介護法では、交代で病人の役に立った受講生を相手に実習を重ねた。血圧計の使い方、尿検査の試験紙の使い方などの技術も覚え、講義学習と共に健康の自己管理能力が高まったようである。

内容は、長寿社会を迎えて、いつまでも健康で生きがいのある生活を送るための「家庭生活と健康講座」であった。主な学習内容として、

また、子ども連れの受講生のために託児室を設けて世話をしたため、若い母親の参加も多数あった。子どもたち同士も一緒に遊びながら新しい体験もしたようである。受講生の感想文の、「自分で血圧測定や尿検査ができるようになった。」「病人の介護に自信がついた。」「自分の健康に留意をするようになった。」「勉強したことをボランティアで役立てたい。などからも本講座が有意義であったことが伺える。

。毎回の血圧測定、尿検査等を、七月から十月にかけて十回にわたって開催した。総合会津中央病院の院長でもある校長先生をはじめ、専門の先生方の、わかりやすく

に感謝する次第である。

新任教職員コーナー わたしの抱負

子どもたちと共に



新鶴村立新鶴小学校
教諭 佐藤 美樹

初めて
三年二組
の教室に
入り、子
どもたち

に会った時、感激して胸が震えたことを覚えている。やつと自分のクラスが持てた、そんな思いでいっぱいだった。今まで、二年間、産休補充などの講師を経験してきた。そこで、どんなに子どもたちと仲良くなっても、担任の先生にはかなわないという淋しさを味わってきた。やつと、「講師」から「教諭」になれたのだ。

教諭になったということは、それだけ責任も重くなったということだ。私の前には、私を担任の先生としてまっすぐに見つめ、信頼を寄せてくれる三十人の子どもたちがいる。毎日瞳を輝かせて登校してくる子どもたちと共に、私も教師として伸びていきたいと思う。

自分からできるよに...



湯川村立坂川小学校
教頭 葉貫 正憲

十二月
中旬を過
ぎたとい
うのに、

小屋はにぎやかである。「この寒いのに...」と思うのに平気である。実に一生懸命である。誰に言われなくても、自分から仕事ができる子どもたちを見ることがうれしくなってしまう。頼もしい子どもたちだと思ふ。

子どもたちに「自分で考え進んで行うことのできるような活動」を数多く経験させてやりたいと思う。新年度はそういうことを踏まえた教育課程にしていかなければならぬと考える。

現在、実態把握のために資料収集に努めているところであるが、全職員の英知を結集し、本校の教育課題を明確にし、特色ある本校の教育課程を編成していきたい。

教育の適時性



高郷村立高郷中学校
校長 山内 昇

丹頂鶴
は学習さ
せる時期
を一晚遅
らせた

けで覚えにくくなるというます。また、鶏の卵がふ化するとき卵の中から雛鳥が殻を破って出ようとやわらかいくちばしでつつくと機を得て両者が相応ずることく親鶏がたくましくちばしで殻を突き破るといわれています。この二つの例はいずれも教育の適時性を示唆しています。

個に応じた指導のタイミングを的確にとらえるには、目に見えにくい変化や心の内なる訴えを鋭く見抜く力が求められるものであり、この力は一人一人に目を向けた真の教育愛によつてのみ培われる「心眼」に帰する所が多い。このことを全職員共通認識にたつて日々の教育活動が展開されることを願っています。

指導課短信

学校訪問を終えて

本年度の学校訪問も、各市町村教育委員会並びに各学校のご協力により計画通り終了することができました。

本年度より、指定授業をなくし、各学校の実態に即しながら形式や内容等を見直して授業分科会を重視した計画訪問はいかがだったでしょうか。

指導課内の反省から主なものを挙げます。

・新学習指導要領の趣旨を生かすとともに、移行措置を適切に位置づけた教育課程を編成・実施している学校が多

い。

・「基礎的・基本的事項の確かな定着」、「個に応じた指導」、「児童生徒主体の学習」などについて具体的な話し合いの場を十分に設定できた。

・今後は、本年度より特に進めてきた「学校課題と対策」という視点から次の二点についての見直しが必要である。

(ア) 児童生徒の実態等から学

教育事務所から

校課題をより具体的にとらえる。

(イ) 課題と対策についての共通理解を図り、実施・評価・改善を適切に進める。

平成三年度

教職員研究論文県審査結果

本年度、管内からは、七点の応募がありました。

県の審査において、関本良先生(門田小)「基礎的・基本的内容の定着を図りながら児童一人一人の個性を生かし、伸ばす社会科学習指導の工夫」と新井田庄次先生(坂下小)「価値に対する心の変化の自覚を大切にしながら道徳の時間の指導」が、見事入選に輝きました。

今回応募された論文は、個人研究七点でしたが、いづれも熱心に取り組まれ、丁寧にとめられた作品でした。

次年度は、共同研究を含め今回以上の数多い出品を期待しております。

なお、県の審査員より、一、論文内容を具体的に、わかりやすく工夫する。

一、資料はなるべく整理する。一、ワープロ等を使用する際は、表記に十分注意する。等の要望が寄せられました。